

三中だより

令和2年度 2月号



令和3年2月22日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 14)
校長 小柴 憲一

各種表彰の結果紹介

前号に続き、荒川区を含む公共機関、財団法人等の主催によるコンクールなどの選考で表彰等の対象となった子どもたちを紹介します。

●第88回 全国書画展覧会審査結果

(日本一の筆の生産地「筆の都」として知られる広島県熊野町が運営する展覧会で、全国・海外から書写の部に101,805点の応募がありました。)

学年	氏名	賞	学年	氏名	賞
3	村松 夏芽	金賞	3	末永 夢	銀賞
3	桑田 真優	金賞	2	原島 由衣	金賞
2	齊藤 百香	金賞			

●「あらかわ人権標語」感謝状(荒川区教育委員会)

学年	氏名
2	佐久 由希菜
2	松崎 栞奈

e ライブラリの家庭における利用状況と努力者

本校では、臨時休業期間中の昨年5月中旬からオンライン教材として e ライブラリを導入しました。導入直後の5月の利用率は最も高く、その後、減少しましたが、定期考査のあった月などは利用率が増加しています。

1月末までの集計をしたところ、学年別・全校の利用した子どもの割合は以下の表の通りとなりました。

集団	利用率
1年	72.3%
2年	76.3%
3年	66.7%
全校	71.9%

さて、子どもたち一人一人の利用状況を見て、3つの観点から評価をしてみました。

1 利用の月数

5月から1月まで9ヶ月のうち、活用しない月があったとしても、3分の2以上、すなわち6ヶ月

以上活用した子どもは継続的に活用したと判断しました。該当した子どもたちは以下の通りです。

学年	氏名	利用した月数
1	緒方 かれん	8ヶ月
1	小原 ゆい	6ヶ月
1	加藤 あめり	7ヶ月
1	三國 敬吾	6ヶ月
3	秦 蒼馬	9ヶ月

6ヶ月未満の利用者だと、
 ○5ヶ月間利用者：1年1名、3年1名
 ○4ヶ月間利用者：1年3名、2年1名、3年4名
 となっており、6ヶ月間継続するのは、とても大変なことだということが分かります。

2 利用の合計回数

家庭学習とは、一度に多くの内容に取り組む試験勉強や受験勉強の追い込みもありますが、通常はたとえ量が少なくても習慣化することが大切です。

5月は中旬からなので、利用日数を15日+30日×8月=255日とします。その255日間で、eライブラリのドリルなどを、1日3回だけでも取り組んだとすると、255日×3回=765回となります。1月末までに、合計で765回以上取り組んだ子どもたちは以下の通りです。

学年	氏名	取り組んだ回数
1	新井 琉夏	1,134回
2	磯貝 優里	890回
3	高橋 夏太郎	1,120回
3	蓮沼 姫菜乃	1,403回

765回未満だと、上位から712回(3年)、692回(3年)、648回(3年)、508回(2年)、470回(1年)、464回(1年)と続き、765回以上取り組むことが容易ではないことが分かります。

3 利用の合計時間

「2」と同様に、家庭学習はたとえ短い時間でも習慣化することが大切です。

一番いいのは、毎日決まった時間に決まった学習をすることです。例えば、夕方6時から20分間は漢字の学習をするなど、短時間でできる学習内容に、他のことを一切考えずに毎日継続して取り組むことです。それが、習慣になると、いわゆるルーティーンとして、そのことをやらないと気がすまない、逆に言うとそのことをやると落ち着くという好循環になります。

eライブラリのドリル型学習は、そのような学習に適した内容となっています。

そこで、ログインしてから、1日7分だけでも取り組んだとすると、255日×7分=1,785分となります。1月末までに、合計で1,785分以上取り組んだ子どもたちは以下の通りです。

学年	氏名	取り組んだ時間
1	新井 琉夏	2,010分
3	秦 蒼馬	2,017分
3	高橋 夏太郎	2,487分
3	蓮沼 姫菜乃	3,484分

1,785分未満だと、上位から1,134分(1年)、922分(1年)、896分(2年)、707分(3年)、635分(3年)、619分(1年)、603分(2年)と続き、2,000分以上というのは、群を抜いていることが分かります。

以上の子どもたちは、eライブラリへの取組として努力した子どもたちと言えます。もちろん、eライブラリだけが家庭学習ではなく、それぞれの子どもによって取り組まなければならない学習があることは理解しています。ただし、eライブラリには、ログインして簡単に、短時間だけでも取り組める特徴があることは確かです。是非、家庭学習の習慣化のためにも、利用してもらいたいと思います。現在、本校ホームページ上からもログインする入りを設置してありますので、お子様に促してみてください。

また、オンライン学習する環境がない場合には、一定のルールを守ることを保護者の方にお約束していただいた上で、タブレットやポケットWi-Fiの貸し出しも行ってまいりますので、必要がある場合は担任までお申し付けください。

第3回学校評議員会より

2月13日(土)18:30より、今年度最後の学校評議員会を開きました。

今回は、子どもたちや保護者の皆様にも評価していただいた、学校評価の結果に対して本校の学校分析を加えた、次ページの『学校評価アンケートの結果』と『自己評価』についてご説明し、評議員の皆様からご感想・ご意見・ご助言をいただきました。

そして最後に、早稲田大学教職大学院教授の 三村 隆男 先生からご指導をいただきました。

評議員の皆様からは以下のようなお話をいただきました。

- 今年度はコロナの関係で、生徒・教職員と触れ合う機会が少なかったため、今年度の評価をすることはできないが、地域の郵便局の前に「荒川三中」と書いたフラワーポットが置いてあるのを見た。できる範囲で地域貢献しているのはよいことだと思った。
- 自分自身も必要最低限の時以外は外出をしていないので、なおさら、子どもたちに会う機会がなく、学校行事も中止になってしまったり参観できなかったりしたので、こうするべきだというようなことは言えない。
- 学校の中が見えにくい1年だった。でも、子どもたちは、自分たちで何とかしなければならぬという自覚が育ったのではないか。その背景には、ご家庭も自分の家の子どもに言い聞かせていたのだと思う。だから、保護者の皆さんから聞くように、子どもたちは落ち着いた生活をし、熱心に学習をしていたのだと思う。
- 祭りなどのボランティアで子どもたちの自己肯定感が高まるのだが、その機会が失われてしまったのは残念である。
- 学校評価表の数字上では大半の子どもは楽しく学校に来ていると読み取れる。タブレットを活用した教育に対する満足度が高い。
- 「三中だより」を送ってもらって読んでおり、ホームページも見えており、学校からは情報発信していると思われるが、その点の評価が高くないのは不思議である。
- 大変な状況の中での教育、学校には敬意を表す。ご苦労様。
- 高校に行く地域から離れてしまう。地域行事がすべて中止になってしまったが、地域の中で中学生が活躍する活動がほしい。
- 去年の団地のイベントに参加した子どもたちは、会うとよく挨拶をしてくれて気持ちがいい。
- 新入生保護者説明会をのぞいてみたが、校長の「一人一人の子どもを大事にする」という話に続く、各担当の先生方の話している内容からも子どもを大事にしている印象がよく伝わってきた。

最後に、三村先生から以下のようなお話をいただきました。

- 今年度の入学式では、1クラスずつやったり、放課後、教員が一つ一つの机と椅子を消毒したり、教員が廊下で給食を食べたりなど、学校が子どもたちと一緒に戦っている姿はすばらしい。教員の努力が学校を変えている。
- 非日常が当たり前となった中で、どのようにやれば子どもたちに教育的効果をもたらすかを考え実践しており、まさにカリキュラムマネジメントだと思った。
- 情報教育に対する子どもの評価が高い。ただし、これからは情報の正確性を見極めることが重要である。他国でフェイクニュースなどがSNSで流れている報道などがあつたが、子どもが将来設計をするのに誤った情報で設計してしまうと、とんでもないことになる。一つだけの情報で動かない。他の情報や意見を収集して、異なる考え方や意見と対話したり、それらを踏まえて判断したりすることのできる資質が求められる。
- 「人権教育」「人間関係作り」などの評価が高いが、今は、点数などではかることのできない、目標に向かって頑張る力、他の人とうまく関わる力、感情をコントロールする力などの非認知的能力が重要視されている。それらは、集団生活の中や地域社会の中で育成される。
- 学校教育というのはジグソーパズルみたいなものである。今年度、非認知的能力を育成することのできる、宿泊行事や体育・文化的行事などが中止になったり、基礎学力を身に付けさせるための授業の時数も少なくなったりしたが、これはジグソーパズルでいうとピースがなくなっていくということと同じである。ピースがなくなってしまったのだから、完全に修復することはできないが、様々な手段でそれを補っている。地域行事を実施するのが困難な状況ではあるが、地域からの支援にも期待する。

オンライン配信による授業等の公開

2月13日(土)の2・3校時をオンラインにより保護者の皆様対象に限定公開しました。

今もなお、有線のLANケーブルにより通信できないか、4階や最も北に位置している体育館で安定した配信ができないかなど研究中ですが、少なくとも来年度、公開ができない場合は、1・2・3階の授業につきましては土曜授業などで積極的に配信による公開をしてみたいです。

